

コール・エコノミー

コール・エコノミーの懇親会が7月1日、大分市内のソレイユで4年ぶり16名の出席で催された。世話人の柴田悌範君（大9）と千葉から出席の中原重光君（大9）が挨拶。

田中雅雄君（大11）の指揮で校歌合唱（一番 斉唱 ・ 二番 四部合唱）。相良 浩君（四極会名誉会長 大12）の音頭で乾杯。食事歓談に入る。

コール・エコノミーは大分大学経済学部グリーククラブの名称を昭和33年に改称。大学9期から20期まで上野丘キャンパス時代の男声合唱団で且野原に移転するまで続いた。部員総数は98名。

名称改称の経緯は、部員の一部がマンドリン部創立のため離脱し人員減少に因る男声合唱団の独自性を出すためであった。変革を目指す。要は3点。①専用部屋の確保。中原君（大9）と私は教務担当教授に談判して物置部屋を部室として使用許可を得た。ピアノの移動は苦勞したが了承いただく。②合唱レベ

ルの向上。私が藤沼恵先生主宰のウイステリアコールに入団していたので先生の指導を受けられるよう多くの部員をウイステリアコールに加入させた。③部員30名の確保。男声合唱の重厚な響きを求め、デカイ声・高い



田中雅雄さんの指揮で校歌を合唱

声・低い声の学生に声をかけ強引な勧誘で集めた。翌年、第1回演奏会を催す。昭和43年まで毎年30名以上の定期演奏会を開催した。

懇親会に出席した諸君の多くは、本卦帰りの第二の人生を再び男声合唱団の運営に携わったり合唱を楽しんでいる。又、男声合唱の感性を生かして俳句界で一角の人物・土屋義方君（大12）や写真展で異彩を放つ中原君など。先輩の意志を引き継ぎコール・エコノミーの心意気を後輩に伝えた多士済々の堀寛爾君たち大学14期は5名出席してくれた。

話題は復興期の苦勞話や合宿練習のエピソード、学部移転で全盛期の定期演奏会直後に閉団した辛さと悲しさなど語り合う。最後の演奏会指揮者 光瀬隆三郎君（大17）は二つの合唱団に参画し活躍している。

二次会は、都町「カラオケスナックひばり」（田中君のお店）に席を移して参加者がそれぞれ十八番の歌でカラオケ合戦。夜の更けていくのも忘れて旧交を温めた。

正に、コール・エコノミーは「四極」の男声合唱団である。

▼出席者（敬称略）

中原重光、柴田悌範、國家俊作（大9）、田中雅雄（大11）、相良浩、土屋義方（大12）、阿部建雄（大13）、堀寛爾、大塚茂樹、竹村晴隆、塚本哲、

光瀬隆三郎（大17）、田中 正信（大19）、中倉義介（大20）、

（國家俊作 大9 記）